

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	病院・薬局薬学
科目名（英文）	Hospital Pharmacy and Community Pharmacy
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	6年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	中川 貴之、松本 みさき、土井 光則
科目ナンバリング	
関連科目	地域医療薬学Ⅰ、地域医療薬学Ⅱ、社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ、事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、病院・薬局実習、医療安全学、臨床医学

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

病院や薬局は様々な機能を有しており、病院薬剤師および薬局薬剤師はそれぞれ高度に専門化された領域で職能を発揮することが求められている。本科目では、病院・薬局実習での学習を踏まえて、病院や薬局の専門的な機能やその仕組み、それらにおける薬剤師の実践的な役割に関するアドバンス的な知識を習得するとともに（知識）、今後の病院・薬局薬剤師がそれぞれ果たすべき役割、将来像についてグループディスカッションで議論する（知識・態度）。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの
- ・国際的視野を有し、地域での医療に貢献できるもの

病院・薬局薬学は、患者の社会的、心理的背景に配慮できる薬剤師を育成するだけでなく、国際的視野も含め地域・社会の中で高度な実践能力を発揮できる資質や能力を養うアドバンス的な科目である。病院・薬局薬剤師の将来像について議論し、地域での医療に先導的役割を果たす薬剤師に足る資質・能力を養う。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

第1回～第12回までの講義後に毎回実施する小テスト（30％）は、学習者の基礎知識習得状況を確認することを目的とし、多肢選択・正誤判定・穴埋め・記述式問題等にて行う。

地域での医療に先導的役割を果たす薬剤師に足る知識や態度を、薬剤師の将来像について議論するグループディスカッション内での活動内容や態度、プロダクト、質疑応答などから評価する（30%）。期末試験（40%）では、習得した知識を主に記述式・論述式の問題で評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	授業ガイダンス・病院/薬局の機能分化	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
2	病棟業務	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
3	チーム医療	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
4	院内製剤/GMP	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
5	災害時医療	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
6	薬剤師の認定/専門制度	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
7	臨床研究と治験	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
8	病院と薬局の地域連携（病診薬連携）	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
9	地域医療	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
10	在宅医療・介護の仕組み	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
11	地域保健への参画	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
12	海外における薬剤師の制度と機能	講義 (講義室)	小テスト 期末試験
13	討議テーマ：病院薬剤師の将来像	グループディスカッション (講義室)	グループディスカッション内での活動内容や態度
14	討議テーマ：薬局薬剤師の将来像	グループディスカッション (講義室)	グループディスカッション内での活動内容や態度
15	まとめ、発表	講義と発表 (講義室)	グループディスカッション内での活動内容や態度

教科書

教科書は特に指定せず、講義毎に授業担当者が作成した資料を配布する。

参考書

特に指定しない。

評価時期

小テスト（1～12 回時）

グループディスカッション内での活動内容や態度（13～15 回時）

期末試験（15 回後）

評価方法

小テスト（30%）

グループディスカッション内での活動内容や態度（30%）

期末試験（40%）

評価基準

授業への出席が 3/4 未満の場合、単位を与えない。

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

本科目は、病院・薬局実習での学習を踏まえて、病院や薬局の専門的な機能やその仕組み、それらにおける薬剤師の実践的な役割に関するアドバンス的な知識を学ぶものになります。病院・薬局で現在実践されている、あるいはこれから導入しようとしている最先端の取り組みを学ぶことにより、10 年、20 年あるいは 30 年後の薬剤師像を思い描き、学生諸君の将来に向けての道標を立てるような科目となるかと思います。本科目は、和歌山県立医科大学附属病院薬剤部に勤務する教員（教授、准教授）だけでなく、現場の病院薬剤師、薬局薬剤師をお招きし、最新のお話を伺う機会とするとともに、薬学部教員が薬剤師の将来像を思い描くグループ討議の円滑な進行を手伝います。

担当者の研究室等

研究室 702

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

本科目を履修するにあたり、最新の話題を多く含むため予習は必ずしも必要としないが、

授業後の復習については1～1.5時間程度の復習を行うとともに、より実践的で深い理解のため事後学習をのべ7～10時間程度行うことが望ましい。また、グループ討議の進行が時間内に不十分であった場合は、時間外に各グループによる討議を行うことが望ましい。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	医療安全学Ⅱ
科目名（英文）	Medical Safety Ⅱ
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	6年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	選択必修
授業担当者	岡田 浩
科目ナンバリング	P6087JA
関連科目	医療安全学Ⅰ、社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

安全・安心な医療をいかにして国民に提供するのかについては医療全体の中で極めて大きな課題である。医療安全に対してチーム医療の中で薬剤師として行うべきことについて身につける。具体的な事例を中心に検討を行い、調剤過誤の誘因や処方監査や疑義照会の際起こりうる過誤を解析することによって調剤事故の防止策について学ぶ。また調剤過誤発生時における患者、家族への対応についても学ぶ。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

薬剤師として医療に携わる際に医療安全に関する知識や技能、態度の取得は必要不可欠なものである。医療の現場で起こりうる医療安全に関わる問題についての知識・技能・態度を身につけることで薬剤師としての実践能力獲得につながるものである。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

評価は、期末試験と TBL におけるテーマ別グループ討議でディスカッションした内容の理解度や医療安全に対する態度について観察記録を通して評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	現場で起こる医療安全に関する実例 1	講義 (講義室)	期末試験
2	現場で起こる医療安全に関する実例 2	講義 (講義室)	期末試験
3	現場で起こる医療安全に関する実例 3	講義 (講義室)	期末試験
4	調剤過誤の誘因 1 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
5	調剤過誤の誘因 2 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
6	処方監査における過誤 1 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
7	処方監査における過誤 2 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
8	処方監査における過誤 3 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
9	疑義照会における過誤 1 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
10	疑義照会における過誤 2 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
11	調剤過誤発生時における患者、家族への対応 1 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
12	調剤過誤発生時における患者、家族への対応 2 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
13	患者安全 1 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
14	患者安全 2 グループワーク	TBL (講義室)	期末試験 レポート・観察記録
15	総括	講義 (講義室)	期末試験

教科書

特に指定しない。

毎回、講義担当者が作成した資料を配布する。

参考書

特になし

評価時期

期末試験（15 回後）

TBL の際の観察記録（3～14 回時）

レポート（3～14 回時）

評価方法

期末試験（60％）

TBL の際の観察記録（10％）

レポート（30％）

評価基準

授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

グループ討議の円滑な進行を支援し、グループワークで気がつかなかった点をフィードバックする。

担当者の研究室等

研究室 502

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考・事前・事後学習課題

授業時間内にグループ討議の進行が不十分な場合は、時間外に各グループによる討議を主体的に行うことを推奨する。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	臨床医学
科目名（英文）	Clinical medicine
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	6年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	選択必修
授業担当者	今井 哲司
科目ナンバリング	P6088JA
関連科目	薬物治療学Ⅰ、薬物治療学Ⅱ、薬物治療学Ⅲ、薬物治療学演習、 薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、薬理学Ⅲ、薬理学演習Ⅰ、薬理学演習Ⅱ、 薬理学演習Ⅲ、がん・化学療法学、病態生理学Ⅰ、病態生理学Ⅱ、 医薬品開発学

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

他の講義で学習した医薬品や治療法が、実際の臨床現場においてどのように活用されているのか、それぞれの問題点は何かといったことについて学習する。また、これまでに得た基礎知識を統合して、キードラッグを用いた実践的な薬物療法に関する理解を深めるとともに、ガイドラインなどで推奨される副作用の対応策について説明できる知識を習得する。さらに多職種連携の重要性や患者が抱える問題点について理解を深め、高い倫理観を身につける。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観，社会人としての良識を備えているもの
- ・単に知識，技能を獲得しているのみではなく，それらを統合的に活用でき，患者の社会的，心理的背景にも配慮することができるもの

臨床医学では、現役の医師、薬剤師、看護師に講師を依頼する。本科目を通して、薬物療法の最新の動向について理解を深めるだけでなく、アンメット・クリニカル・ニーズや患者や家族が抱える悩みといった、より実践的な事項について学習し、先導的役割を果たす医療人に足る資質・能力を養う。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

各授業の最後に、講義内容の重要事項に関する確認テスト（正誤）を実施し、理解度について問う（配分 計 30%）。また、毎回次週にレポートを提出させ、評価者はその完成度を確認する（配分 70%）。レポート課題では、単に知識を問うものではなく、治療法の特徴、アンメット・クリニカル・ニーズ、患者が抱える問題点、薬剤師の役割などに関する自身の考え・意見を問い、倫理観の修得度についても評価を行う。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	授業ガイダンス 臨床的課題の捉え方とリサーチクエッション への変換	講義 (講義室)	小テスト、レポート
2	薬物治療の実際：循環器疾患	講義 (講義室)	小テスト、レポート
3	薬物治療の実際：腎疾患	講義 (講義室)	小テスト、レポート
4	薬物治療の実際：消化器疾患	講義 (講義室)	小テスト、レポート
5	薬物治療の実際：代謝系疾患	講義 (講義室)	小テスト、レポート
6	薬物治療の実際：免疫疾患	講義 (講義室)	小テスト、レポート
7	薬物治療の実際：感染症	講義 (講義室)	小テスト、レポート
8	薬物治療の実際：神経変性疾患	講義 (講義室)	小テスト、レポート
9	薬物治療の実際：精神疾患・睡眠障害	講義 (講義室)	小テスト、レポート
10	薬物治療の実際：がん薬物療法 1	講義 (講義室)	小テスト、レポート
11	薬物治療の実際：がん薬物療法 2	講義 (講義室)	小テスト、レポート
12	薬物治療の実際：緩和医療	講義 (講義室)	小テスト、レポート
13	がんゲノム治療の実際：流れと倫理観	講義 (講義室)	小テスト、レポート
14	薬物治療の実際：移植療法	講義 (講義室)	小テスト、レポート
15	薬物治療の実際：産婦人科、小児科領域	講義 (講義室)	小テスト、レポート

教科書

特に指定しない。

毎回、授業担当者が作成した資料（パワーポイント）を配布する。

参考書

講義内容が多分野に及ぶため、特に指定しない。

評価時期

小テスト（毎回）

レポート（毎回）

評価方法

小テスト（30%）

レポート（70%）

評価基準

総評価の 60%以上で合格。

12 回以上の授業への出席と対応するレポート等の提出が単位獲得の必須条件である。

学生へのメッセージ

本科目では、現役の医師、薬剤師、看護師に講師を依頼し、臨床における現状や問題点、求められる医療人（薬剤師、研究者）の役割について実例に基づき紹介してもらう。これによって、これまでに学んできた医薬品や治療法に関する基礎知識が、より実践的な知識として整理・統合されると思われる。また、チーム医療・多職種連携の重要性や、アンメット・クリニカル・ニーズについての理解を深めてもらいたい。

担当者の研究室等

研究室 703

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

本科目を履修するに当たり、レポート作成以外に、毎回授業後に 1～1.5 時間程度の復習を行うことが望ましい。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	臨床薬学演習
科目名（英文）	Clinical Pharmaceutical Practice
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	6年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	須野 学、中川 貴之、岡田 浩、江頭 伸昭、今井 哲司
科目ナンバリング	P6089JB
関連科目	全科目

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

臨床の場で活躍する薬剤師として求められる、臨床的および医薬品に関する科学的な情報収集、分析、価値判断をおこない、それらの情報を統合して、薬剤師としての意思決定を行う。その結果を多職種、患者など相手に合わせた形で加工して、相手の心理・社会的背景に合わせた形で伝達し、適切な薬物療法を遂行する資質・能力を修得する。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの
- ・国際的視野を有し、地域での医療に貢献できるもの

臨床薬学演習は、薬剤師として必要な知識の修得とその活用、さらに臨床的な文脈を踏まえた情報収集、分析、判断、結果の表現を求めるものである。6年間を通した薬学の学びの総合的な実践的活用を求めるものであり、すべてのディプロマ・ポリシーの到達にとって必須である。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

臨床で活躍する薬剤師に求められる思考、行動を、討議中の行動やプロダクト、問題に対する取り組みや問題解決への提案内容から評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	ガイダンス、導入講義、 症例提示 (1)、症例演習 (1)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
2	症例演習 (1)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
3	ロールプレイ、フィードバック (1)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
4	プレゼンテーション、模擬カンファレンス (1)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
5	導入講義、 症例提示 (2)、症例演習 (2)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
6	症例演習 (2)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
7	ロールプレイ、フィードバック (2)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
8	プレゼンテーション、模擬カンファレンス (2)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
9	導入講義、 症例提示 (3)、症例演習 (3)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
10	症例演習 (3)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
11	ロールプレイ、フィードバック (3)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
12	プレゼンテーション、模擬カンファレンス (3)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
13	導入講義、 症例提示 (4)、症例演習 (4)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
14	症例演習 (4)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
15	ロールプレイ、フィードバック (4)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録
16	プレゼンテーション、模擬カンファレンス (4)	講義、演習 (講義室)	レポート 観察記録

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

評価時期

観察記録（毎回）

レポート（毎回）

評価方法

観察記録（50%）

レポート（50%）

評価基準

本科目は参加型の学習であり、出席を前提とした教育方略・評価を行う。従って、正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

総評価の 60%以上で合格。

担当者の研究室等

研究室 601

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考

事前・事後学習課題

演習を円滑に進行させ学習効果を最大化するためには、毎回の演習内容に関する自己学習（各症例 2 時間程度）を行うことが望ましい。また、授業時間内でのグループワークが十分ではない場合は、グループ単位での主体的な学習が望ましい（各症例 3 時間程度）。発表用のプロダクトの作成は時間内では困難であると予想されるため、自発的な情報の収集、評価、活用についての各症例 2～3 時間程度は取り組むことが望ましい。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	薬学特別演習
科目名（英文）	Integrated Pharmaceutical Practice
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	6年次・後期
クラス	全クラス
履修区分	自由
授業担当者	太田 茂、赤池 昭紀、平田 收正、松原 和夫
科目ナンバリング	P6090JB
関連科目	全科目

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師として臨床で活躍するために必要な知識を確実に修得し、それらを活用して複雑な問題に取り組み問題解決を達成する能力を養うとともに、様々な環境においても獲得した能力を確実に発揮する。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの
- ・国際的視野を有し、地域での医療に貢献できるもの

薬学特別演習は、薬剤師として必要な知識の修得を求めるものであり、単なる記憶の再生ではなく、深いレベルでの活用による問題解決を求めるものである。知識の深い活用は、すべてのディプロマ・ポリシーの到達にとって必須である。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

基本的な知識の再生のみではなく、薬剤師に求められる臨床の文脈に基づいた思考と問題解決能力を評価する。また、あらゆる場面でそれらの能力の発揮を求めるため、継続した成果の表現を評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	物理領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
2	化学領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
3	生物領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
4	衛生領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
5	薬理領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
6	薬剤領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
7	病態領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
8	薬物治療領域に関する演習 1	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
9	薬物治療領域に関する演習 2	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
10	法規・制度領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
11	実務領域に関する演習	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
12	統合的な演習 1	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
13	統合的な演習 2	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
14	統合的な演習 3	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート
15	統合的な演習 4	講義、演習 (講義室)	期末試験 レポート

教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書

特に指定しない。

評価時期

期末試験（15 回後）

レポート（毎回）

評価方法

期末試験（50%）

レポート（50%）

評価基準

総評価の 60%以上で合格。

担当者の研究室等

研究室 902

オフィスアワー：毎週水曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考

特になし

事前・事後学習課題

本演習では、代表的な課題、症例を取り上げ知識の活用方法について解説を行うが、薬剤師に求められるすべての課題を取り扱えるわけではない。修得した活用方法を各論的な問題に適用し解決法を見出すために、十分な復習と主体的な学習が必要である。